

**(1) 海獣とは**

海獣類は、いくつかの全く系統の異なる陸上哺乳類が、水中生活者へと適応したものです。イルカやクジラの仲間(鯨類)は、最も古い時代に水中に進出した動物群で、体が魚形になり水中の生活に最もよく適応しています。

ここに展示しているゴマフアザラシ、トド、セイウチは、四肢がヒレに変化した鱗脚類です。ラッコはイタチのなかまで、前肢はヒレ状にはなっていませんが、後足の

水かきで水の中を上手に泳ぐことができます。水中生活者としての適応の仕方を比べてみてください。



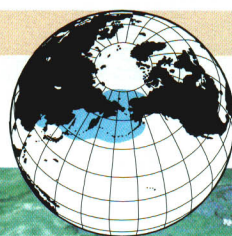
▲セイウチの群れ

**(2) ゴマフアザラシ(アザラシ科)**

ゴマフアザラシは、北半球の寒い海に最も普通に見られます。体色は、灰色の地色に黒色および白色の斑点がゴマをまいたようにあり、ときにはそれが集まって黒っぽく、または白っぽく見えます。

ゴマフアザラシは、いろいろな魚類や、イカ、タコ、エビ、カニなどを食べ、二枚貝は歯でかみ割って食べます。春になると繁殖期をむかえ、流氷の上に真っ白な毛皮の子を産み、氷の上で育てま

す。子どもの毛は2~3週間ほどすると親と同じような黒い斑点がある毛に生えかわります。このころになると海での生活がはじまり、親から離れて魚などを自分の力でとるようになります。



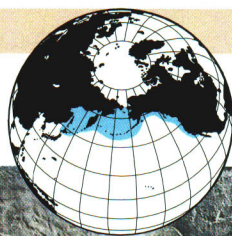
▲ゴマフアザラシ

**(3) トド(アシカ科)**

オスは体長3mに達し、アシカ科の中では最大となります。体重はメスで350kg程度ですが、オスは1000kgを超えるものもあり、たてがみを持ち、口ひげも長く、堂々たる風格をしています。

全身は黄褐色で、ひれ状の前後肢が黒褐色をしています。群れで行動していますが、極めて用心深く、よく統制がとれています。トドは、岸の近くで生活し、タラ、タコ、イカなどいろいろなものを

食べます。5月から8月の繁殖期にはオス1頭にメス10数頭のハーレムをつくり、メスは1頭の子を産みます。



▲トド